

履修モデル

【ケース1】

入学時の背景	研修修了後の歯科医師
入学目的	矯正歯科医師としてより深く高度な専門知識と技術を修得したい
修了後の希望進路	矯正歯科医師として勤務・開業を目指す

【履修モデル1】

研究テーマ	下顎発生過程における正中癒合部の形成機構の解明		
指導内容	顎顔面形成に重要な役割を果たす <i>Msx1</i> 遺伝子の下顎形成のメカニズム解明を目的として、遺伝子改変マウスの解析を行う。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	主科目	歯科矯正学 I	4
		歯科矯正学 II	1
		歯科矯正学 III	1
		歯科矯正学 IV	3
		顎口腔機能矯正学 I	2
		顎口腔機能矯正学 II	8
		顎口腔機能矯正学 III	2
	副科目	初年次研究研修プログラム	1
		解剖学特論	4
選択科目	大学院特別講義	4	
	生命分子形態学	2	
	臨床研究デザイン I	2	
	合計		36
備考	歯科矯正に関する講義・演習を選択して専門知識と技術を修得する。研究指導では当該分野において研究に係る論文の抄読・研究手法を修得し、自ら主体的に研究を遂行できる能力を身に付けることができるよう指導する。		

【ケース2】

入学時の背景	研修修了後の歯科医師
入学目的	歯科医師としてより深く高度な専門知識と技術を修得したい
修了後の希望進路	大学教員として勤務希望

【履修モデル1】

研究テーマ	新規根管充填剤の開発		
指導内容	操作性と生体適合性に優れた新規根管充填剤の開発を目指し、新規根管充填剤の材料学的な性質と生体適合性について検討する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	主科目	口腔保存治療学Ⅰ	2
		口腔保存治療学Ⅱ	2
		口腔保存治療学Ⅲ	4
		口腔保存治療学Ⅳ	6
		口腔保存治療学Ⅴ	4
		口腔病態病理学演習Ⅰ	2
	副科目	初年次研究研修プログラム	1
		口腔病態病理学講究	2
選択科目	大学院特別講義	2	
	臨床研究デザインⅠ	2	
	臨床研究デザインⅡ	2	
	生体材料論	2	
合計			31
備考	専攻分野に関係する講義・演習を選択して専門知識と技術を修得する。研究指導では当該分野において研究に関する論文の抄読・研究手法を修得し、自ら主体的に研究を遂行できる能力を身に付けることができるよう指導する。		

【ケース 3】

入学時の背景	留学生
入学目的	歯科医師としてより深く高度な専門知識と技術を修得したい
修了後の希望進路	母国へ帰国後、大学教員として勤務希望

【履修モデル 1】

研究テーマ	下顎骨変形指標を用いたインプラント支持固定性補綴装置の予後予測		
指導内容	無歯顎インプラント支持固定性補綴装置の予後に使用できる指標を確立するため、様々な下顎骨変形を測定し、測定値の中から予後に使用できるものを検索する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	主科目	口腔インプラント補綴学Ⅰ	4
		口腔インプラント補綴学Ⅱ	4
		口腔再建リハビリテーション学Ⅰ	2
		口腔再建リハビリテーション学Ⅱ	2
		口腔再建リハビリテーション学Ⅲ	2
		最新口腔再建リハビリテーション学	6
副科目	初年次研究研修プログラム	1	
	顎口腔欠損再構築学Ⅲ	6	
選択科目	大学院特別講義	2	
	臨床研究デザインⅠ	2	
	合計		31
備考	<p>専攻分野に関係する講義・演習を選択して専門知識と技術を修得する。研究指導では当該分野において研究に関する論文の抄読・研究手法を修得し、自ら主体的に研究を遂行できる能力を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>留学生であることを考慮して、講義・演習は英語で行う。</p>		

【ケース4】

入学時の背景	開業 15 年の歯科医師
入学目的	歯科医師としてより深く高度な専門知識と技術を修得したい
修了後の希望進路	修得した知識と技術を今後の診療に生かしたい

【履修モデル1】

研究テーマ	光学印象法の精度改善		
指導内容	光学印象法によるデジタル作業模型と従来法による作業模型を比較し、デジタル作業模型による補綴物の精度の向上を目的として、光学印象法による印象採得法の最適化を図る。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	主科目	補綴治療学Ⅰ	4
		補綴治療学Ⅱ	2
		補綴治療学Ⅲ	2
		顎口腔欠損再構築学Ⅰ	4
		顎口腔欠損再構築学Ⅱ	2
		顎口腔欠損再構築学Ⅲ	6
	副科目	初年次研究研修プログラム	1
		最新口腔再建リハビリテーション学	6
選択科目	大学院特別講義	2	
	画像撮影法と解析法	1	
	摂食脳科学	2	
	合計		32
備考	<p>専攻分野に関係する講義・演習を選択して専門知識と技術を修得する。研究指導では当該分野において研究に関する論文の抄読・研究手法を修得し、自ら主体的に研究を遂行できる能力を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>社会人大学院生であることを考慮して、可能な限り講義・演習は夜間や休日に行う。</p>		

【ケース5】

入学時の背景	研修修了後の歯科医師
入学目的	歯科医師としてより深く高度な専門知識と技術を修得したい
修了後の希望進路	口腔外科専門医として大学病院・総合病院勤務希望

【履修モデル1】

研究テーマ	LPS による BRONJ 発症メカニズムの解明		
指導内容	BRONJ モデルラットを使用して、骨壊死の治療法の開発を目的として、BRONJ 発症の詳細なメカニズムの解明を検索する。		
履修科目	科目	授業科目	単位
	主科目	顎顔面外科学ベーシック治療学コース	4
		顎顔面外科学 I	2
		顎顔面外科学 II	2
		顎顔面外科学 III	2
		顎顔面外科学ベーシック診断学コース	4
		感染症学 I	2
		感染症学 II	2
		感染症学 III	2
		臨床病理診断学	4
		臨床病理診断学演習	2
副科目	初年次研究研修プログラム	1	
	周術期管理と外科基本手技	2	
選択科目	大学院特別講義	2	
	画像撮影法と解析法	1	
	顎顔面外科学概論	2	
	感染症の分子生物学	2	
	合計		36
備考	専攻分野に関係する講義・演習を選択して専門知識と技術を修得する。研究指導では当該分野において研究に関係する論文の抄読・研究手法を修得し、自ら主体的に研究を遂行できる能力を身に付けることができるよう指導する。		